



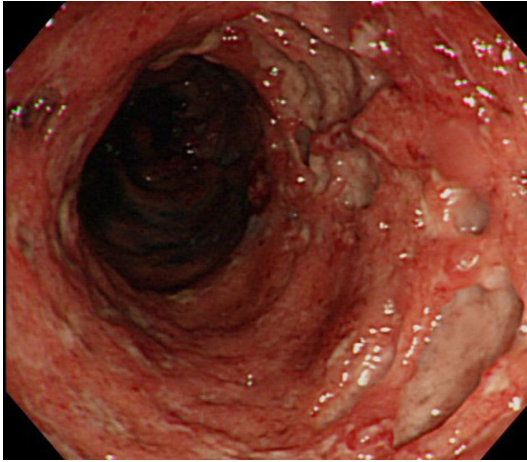
# 病診連携通信

## 第 23 号

公益財団法人  
湯浅報恩会  
寿泉堂綜合病院  
平成30年4月

### 潰瘍性大腸炎診療のご案内

#### 潰瘍性大腸炎の内視鏡像(重症)



粘膜の浮腫、深い潰瘍が認められる

#### 潰瘍性大腸炎の臨床的分類

	重症	中等症	軽症
排便回数	6回以上	重症と軽症の間	4回以下
顕血便	(+++)		(+)~(-)
発熱	37.5℃以上		(-)
頻脈	90/分以上		(-)
貧血	Hb10g/dL以下		(-)
赤沈	30mm/h以上		正常

潰瘍性大腸炎は、びまん性の炎症により大腸粘膜にびらんや潰瘍を形成する原因不明の病気です。30歳以下の成人で多く発症しますが、小児や50歳以上の年齢層でもみられ、免疫や心理的要因の関与が考えられています。通常、血性下痢と腹痛、全身症状を呈します。長期間にわたり大腸全体に病変がおよぶ場合には、悪性化の傾向があるとされています。

重症化した場合や難治性の症例では外科的治療を選択することもあります。近年、様々な治療薬が登場してきたことにより、内科的に病気をコントロールできるケースが増加しています。内科治療の中心となる薬は5ASA製剤で、以前よりも大量に投与することや、投与方法を注腸や坐剤に変更することにより、寛解を維持できるようになってきました。ステロイドホルモン剤に頼るケースもありますが、長期使用による副作用の問題があり、現在は免疫抑制剤、生物製剤を導入して組み合わせ、病状の改善をはかっています。

多くの患者さんは寛解と再燃を繰り返すことから長期間の医学管理が必要となります。重症度分類を記載しましたが、特に重症、中等症の患者さんは入院治療の適応、緊急処置が必要になることがありますので、当院にご相談ください。  
(消化器内科:塩谷 康夫)

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または  
☎024-932-6363 (代表) にお問い合わせください。